

子どもたちが、予測できない社会にあってもたくましく未来を切り拓けるよう、立川市第2次学校教育振興基本計画に基づき、「知」・「徳」・「体」をバランスよく育むとともに、自己を向上させようとする学びの意欲、他者と協働してよりよく課題を解決し、周囲の人や社会に貢献しようとする態度や能力、思いやりの心を育む。

教育指導に当たっては、人権尊重の精神を基に、一人一人のよさを認め、互いに学び合う教育を基調とし、ルールやきまりを守り、落ち着いた学習環境の中で基礎・基本を定着させ、学んだことをこれからの生活や社会に生かそうとする学びに向かう力や人間性、実際の社会や生活で生きて働く知識・技能、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力など三つの力をバランスよく育成する。

また、保護者、地域、専門家等と連携・協働しながら、学力を底上げする学習支援、安心して学校生活を送るための環境支援を進め、共感的で多面的な児童理解を基に、知識や考え方を活用・実践する質の高い教育内容や多様な人との関わりを工夫し、心豊かに生き生きと学ぶ児童を育成する。

1 第六小学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法、東京都教育委員会及び立川市教育委員会の教育目標を踏まえ、人権尊重の精神を基盤として、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる能力をもつ児童を育てるために、次の目標を設定する。

☆考える子（知）

☆は重点目標

基礎・基本を身に付け、よく考え、自分からすすんで活動する子

○思いやりのある子（徳）

人間としてふさわしい人権感覚をもち、温かい心で支え合う子

○元気な子（体）

自他の生命と安全に関心をもち、心身ともに健康で明るい子

2 学校経営の基本理念

ひまわりの校章に込められた「子どもたちが、太陽に向かって健やかに育つように」という願いを基に、「チーム六小」として「みんなが輝く学校」を創る。明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、すべての子どもが生き生きと学び、安全・安心で信頼される学校であり続けるよう、全教職員が「子どもの今と未来に大切なこと」を考え、主体性と確かな指導力、よさを発揮し、子どもの生きる力を育む学校経営を進める。

コミュニティ・スクールの仕組みを生かした教職員、保護者、地域の連携・協働体制を一層進め、地域人材や地域資源を生かした豊かなふれあい、確かな児童理解、どの子どもにも分かる指導を徹底する。そして、学校に関わる様々な人が子どもの健やかな成長に向けて知恵や力を出し合い、子どもも大人も育ち合い、将来への夢や希望、取り組みたいことを膨らませ、愛着と誇りのもてる学校をつくる。

「みんなが輝く学校」

○明日が楽しみな学級・学年・学校経営を基盤に、「子どもの今と未来に大切なこと」を考え、「チーム六小」で地域と共にある学校経営を行う。

○人材育成、組織力の向上を図り、児童と教職員を認め、鍛え、伸ばす。

3 目指す学校像

「I・合い・愛」のあふれる楽しい学校の創造

- I：一人一人が瞳を輝かせ生活する学校（自立）
- 合い：共に学び合う意欲にあふれる学校（共学）
- 愛：共に生きようとする言動にあふれる学校（共生）

4 目指す児童像

- 基礎・基本を身に付け、よく考え、自分からすすんで活動する子
- 人間としてふさわしい人権感覚をもち、温かい心で支え合う子
- 自他の生命と安全に関心をもち、心身ともに健康で明るい子

5 目指す教師像

公教育に携わる者として、教職員一人一人が使命と職責を深く自覚し、児童、保護者、地域からの信頼の向上に努めることが必要である。また、児童の意欲や心情を大切にしながら、受容的で温かいコミュニケーションと指導力の向上に努め、児童一人一人に学びに向かう力や豊かな人間性、小学校段階で身に付けさせなければならない基礎的・基本的な知識や技能、思考力・判断力・表現力等を育むことが大切である。

教育活動の連続性を踏まえ、報告・連絡・相談を適時適切に行い、同僚、保護者、地域と連携・協働しながら、教育内容の向上と学校課題の解決に工夫して取り組む教師集団、興味・関心の幅を広げ、朗らかで時に粘り強く教育活動を推進する教師集団を形成する。

また、教職員が児童と向き合い、学びの質を向上させることができるよう、仕事分担の平準化、支援が必要な児童への学校指導員の配置、校務の電子化や文書・教材の共有化、会議の短縮、定時退勤日の設定等を行い、仕事の効率化を図る。

「朗らかに 工夫して 最後までやり抜く教師」

- 人として大切にすることを考え行動する教師。
- 組織力を活かし、課題を主体的に改善する教師。
- 自己研さんに励み、常に向上しようとする教師。
- 地域とともに学校を創り上げる教師。

6 立川第三中学校区で目指す児童・生徒像

就学前教育と小・中学校9年の12年間を通した連携教育活動により、途切れ・隙間のない滑らかな指導を目指す。

各教科等における系統的な指導とともに、小・中学校の接続期間（小5～中1）において、SNS 学校ルール、いじめ防止の取組、生活指導の充実を図る。また、「学力・体力の向上」「行事への参画・参加」「学校状況理解・周知」「環境整備の充実」等で地域・市民の協力を得るとともに、小・中学生が地域の市民力となり貢献する教育活動を積極的に進め、学校・家庭・地域が一体となって知・徳・体の調和の取れた児童・生徒の育成に努める。

- 自らすすんで学び、規範意識を高くもち、互いを認め合う児童・生徒

7 教育目標を具現化するための取組

「学校運営協議会」「地域学校協働本部」を核としたコミュニティ・スクールの推進（ネットワーク型学校経営）、カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを進め、地域人材や地域資源の積極的な活用と児童・学校による地域貢献を図り、次の学校づくりを推進する。

(1) 確かな力を身に付けさせる学校

① どの子にも分かる授業の工夫

授業の構造化や「立川スタンダード20(基本的指導過程)」、「六小スタンダード」に基づく授業改善を行い、主体的・対話的で深い学びを実施し、どの児童にも分かる喜びを味わわせ、自主的、自発的に学習する態度を育てる。

また、全学級でICT機器を活用した効果的な指導を推進し、児童の興味・関心を高め、主体的に課題解決し、互いのよさから学び合う効果的な授業づくりを推進する。

算数科では、習熟度別少人数指導を充実し、個に応じた基礎的・基本的な学習内容の定着及び発展的な学習の充実を図る。

【成果目標】授業がよくわかるという児童85%以上、「立川スタンダード20(基本的指導過程)」「六小スタンダード」を基に授業改善に取り組んだ教員90%以上

【方 策】授業の構造化、主体的・対話的で深い学びの実施、ICT機器を活用した効果的な指導の推進、算数科の習熟度別少人数指導の充実

② 反復学習、家庭学習、補充的学習の充実

さんさんタイム（国語・算数・理科）の東京ベーシック・ドリル活用、朝読書や読書週間の充実、放課後子ども教室「はごろもっ子」、「地域未来塾事業」における補充的な学習・発展的な学習を推進し、学力の向上を図る。

また、毎学期実施する「家庭学習週間」を通して、家庭での予習・復習を見直し、学習習慣と学習内容の確実な定着を図る。

【成果目標】学力や体力向上の組織的な取組を評価する保護者80%以上

【方 策】さんさんタイム（国語・算数・理科）の東京ベーシック・ドリル、朝読書や読書週間の充実、放課後子ども教室等の補充的な学習・発展的な学習の充実、毎学期の家庭学習週間の設定

③ 「プログラミング教育」研究協力校としてのプログラミング教育の実施

「プログラミング教育」研究協力校として、プログラミング的思考を育成する学習や主体的に課題解決する学習を計画的に展開し、学力や情報モラルの向上を図る。

【成果目標】プログラミング教育への理解が深まったと感じる教員80%以上

【方 策】計画的なプログラミング教育・情報モラル教育の実施、取組内容や成果が分かる資料の作成

(2) 健やかな体を育む学校

① 体力や運動への関心・意欲の向上

体力調査結果や「立川スタンダード20(体育・保健体育編)」に基づく授業改善、「体力向上推進月間」「さんさんタイム(体力向上)」を中心とした取組(短縄・長縄跳び、持久走、ラジオ体操等)、目標を設定して取り組む体力チャレンジにより、体力の向上と運動の楽しさを味わわせる。

また、体験的な学習や交流学习を活用したオリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツやよりよい生き方への関心を高めるとともに、外遊びを励行し、運動の日常化を図る。

【成果目標】体力の向上を実感する児童80%以上

【方 策】体育の授業改善、「体力向上推進月間」「さんさんタイム（体力向上）」の取組、目標を設定して取り組む体力チャレンジ、オリンピック・パラリンピック教育の推進、外遊びの励行

② 心身の健康保持増進に関する意識の向上と生活習慣の向上

栄養士及び調理主任等と連携し、食物アレルギーの対応、食と健康、食事の習慣等についての意識を高める。また、毎学期実施する「健康ウィーク」において「ひまわりっ子元気ファイル」を活用し、児童の生活習慣の改善・向上を図る。

【成果目標】生活習慣の向上が図れたと評価する保護者80%以上

【方 策】食育の推進、「ひまわりっ子元気ファイル」による生活習慣の見直し

(3) 特別支援教育の理念を踏まえ個を伸ばす学校

① 特別支援教育体制の充実

特別支援教育コーディネーター(2名)を中心に、校内委員会・サポート会議を効果的に開催し、特別な支援を必要とする児童・保護者への支援方針や、外部相談機関、医療機関への連携・接続等の検討を行う。

また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、巡回相談等による専門職の助言や特別支援教育への理解を深める研修を生かし、個の特性に応じた教育活動や課題の改善を図る。

【成果目標】特別支援教育体制の充実を実感する教員80%以上

【方 策】特別支援教育コーディネーターの2名体制、校内委員会・サポート会議の効果的な開催、SCやSSW、巡回相談員等の有効活用、特別支援教育の研修実施

② 支援計画に基づく計画的な特別支援教育の実施

就学支援シートを受領した児童をはじめ、支援が必要な児童への「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」、「個別指導計画」、「個別適応計画書」を作成・活用し、学校と家庭で定期的に目標と手だてを共有しながら、個に応じた指導の充実を図る。また、学校支援員を適切に配置し、児童の学習や生活の課題改善が円滑に図れるようにする。

【成果目標】支援計画に基づく計画的な特別支援教育に取り組んだ教員80%以上

【方 策】「個別の教育支援計画（学校生活支援シート）」、「個別指導計画」、「個別適応計画書」の作成・活用、学校支援員の適切な配置

③ 個に応じた指導の充実

学級・学校環境のユニバーサルデザイン化を組織的に行うとともに、特別支援教室六小キラリの指導の充実、学級担任と六小キラリの特別支援教室巡回指導員、特別支援教室専門員等と連絡・相談を密に行い、個に応じた指導の充実を図る。また、特別支援教育の理解・啓発を児童、保護者に実施し、自他の違いを理解し、認めながら共生しようとする温かい学校風土を醸成する。

【成果目標】個に応じた指導で児童の変容を実感する教員80%以上

【方 策】学級・学校環境のユニバーサルデザイン化、特別支援教室六小キラリの充実、担任・巡回指導教員等の連携強化、特別支援教育の理解・啓発の推進

(4) 豊かな心を育む学校

① 六小人権標語に基づく自他を大切にし、思いやりのある児童の育成

「人権教育プログラム」や六小人権標語「ひびけあいさつ元気よく まわりも大切 わたしも大切 りかいし合おうお互いを」を基に、いつでも、誰にでも進んで元気よく挨拶ができる指導や、チクチク言葉でなくフワフワ言葉を使う指導を推進する。子ども同士でも、相手を尊重した呼び方や話の聞き方を心がけるなど、自他を尊重する心情と態度を養うとともに、学校生活アンケートによる学級力や児童の意識向上、「考え、議論する道徳授業」の充実による豊かな心情や道徳的判断力・実践力の向上を図る。

【成果目標】 あいさつやお互いを大切にして生活している児童85%以上

【方 策】 挨拶習慣の定着とふわふわ言葉の推進、学校生活アンケートによる学級力や児童の意識向上、「考え、議論する道徳授業」の充実

② いじめ、不登校等の課題への即時・早期・組織的対応の実施

「立川市立第六小学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめは絶対に許さないという強い信念で組織的に未然防止、早期発見、早期解決に努める。

「ふれあい月間」、「いじめ解消・暴力根絶旬間」、「弁護士によるいじめ防止授業」、「人権月間」及び「挨拶運動」を中心に、いじめや暴力を生まない、許さない学校づくりを推進し、教職員、保護者、地域と連携して早期発見・早期対応によるいじめの根絶を図る。

また、不登校は、長期化する前に保護者と積極的に連携し、SSWによる継続的な支援も活用しながら、未然防止と早期解消、きめ細かな登校支援に努める。

【成果目標】 毎日楽しく学校に通っている児童85%以上

【方 策】 「六小いじめ防止基本方針」に基づく取組の推進、いじめ防止授業・生命尊重教育の充実、きめ細かな登校支援

③ どの子にも分かる、守れる生活ルールの指導の徹底

学校のきまりを守る大切さについて、六小スタンダード（学校生活編）や「ひまわりっ子の生活」を基に教職員全員で統一した指導を行い、週番による週ごとの振り返りや月ごとの重点目標による指導の徹底、毎学期の児童の振り返り等により定着させる。

【成果目標】 学校のきまりが守れたと感じる児童85%以上

【方 策】 チャイム着席・廊下歩行・清掃指導の充実、生活指導夕会による指導状況の確認と徹底

(5) 地域とともに子どもを育む学校

① 「学校運営協議会」「地域学校協働本部」を核としたコミュニティ・スクールの推進

定期的に「学校運営協議会」「地域学校協働本部」に関わる委員会（地域学校コーディネーター連絡会）を実施し、地域人材やボランティアとの協働によりネットワーク型学校経営システムを構築し、学校の教育力を高める。

また、創立70周年記念行事に向けた実行委員会を立ち上げ、学校の歴史や伝統、これまで六小に関わってきた人たちの思いや良さを実感できる取組を工夫して、児童・保護者・地域の方々の学校への愛着と誇りを醸成する。

【成果目標】 保護者・地域との連携による学校経営を評価する保護者85%以上

【方 策】 定期的な「学校運営協議会」「地域学校協働本部」の開催、地域人材・ボランティアとの協働、周年行事に向けた実行委員会の立ち上げ

② 「立川市民力を育む立川市民科の具体的展開」の研究深化・立川市民科の成果の発信

「立川市民科」を中心に探究的な学習、体験活動、言語活動の一層の充実を図り、自ら課題を見付け、自ら学び考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決していく資質や能力を育成する。また、地域の人々と関わる機会を数多く設定し、職業選択の幅を広げ、地域貢献しようとする意識と実践意欲を高める。

さらに、教育力向上推進モデル校3年次として、「立川市民力を育む立川市民科の具体的展開」の研究を深化させ、「まちを知り、まちに愛着をもち、まちに貢献できるまちの担い手」を育成し、取組を広く市内外に発信する。

【成果目標】まちに愛着をもち、貢献しようとする児童85%以上

【方 策】計画的な指導と校内研究の推進、全学年の研究授業と研究発表会実施、東京都多摩地区教育推進委員会での発表

(6) つながりのある学校

① 幼稚園、保育園、中学校区の連携強化

幼稚園や保育園との交流会や小中連携教育、近隣小学校との連携活動を通して、学習面・生活面で共通の課題の把握や改善のための取組を進める。

ア) 生活指導の課題の共有と校区共通の取組推進

校区としての生活意識や規範意識の向上、配慮の必要な児童・生徒が落ち着いて学習活動に取り組める環境整備と指導方法の共通化を図る。

【成果目標】小中連携の生活指導の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】挨拶運動や学校行事における連携、児童会・生徒会サミットの実施、生活指導情報の共有と解決策の実施、配慮の必要な児童への指導方法の共有化

イ) 学習指導・外国語活動に関する連携推進

教科の円滑な接続や読書活動、家庭学習の習慣化を推進し、学習意欲や基礎的・基本的な学力の向上、本に親しむ態度や学習習慣の定着、小学校の外国語活動の充実と中学校英語への円滑な接続を図る。

【成果目標】小中連携の学習指導の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】公開授業の実施による系統的な指導の充実、読書活動を充実させる交流活動の実施、三中校区教員の参加による外国語活動の充実

ウ) 立川市民科と心の教育の充実

立川市民としての意識や主権者意識の向上を図る取組、小中一貫した道徳教育の実現を目指した授業改善に取り組み、児童・生徒の思いやりの心を育む。

【成果目標】小中連携の市民科と心の教育の取組が進んだと評価する教員80%以上

【方 策】多摩・武蔵野検定、応急処置・普通救命講習、ファーレ立川、防災教育、地域力を生かした取組の推進、三中校区連合音楽会の実施、道徳授業相互交流の実施

② 学校生活の積極的な情報発信

学校だより、学年だより、学級だよりの充実を図り、教育活動の様子を積極的に広報する。児童の感想を交えた朝会通信の発行、学校ホームページの積極的な更新と内容の充実等により、学校の指導方針や児童の成長の様子を分かりやすく発信し、保護者・地域との連携強化を図る。

【成果目標】学校生活の様子が分かると感じる保護者85%以上

【方 策】学校ホームページの積極的な情報発信、児童の感想を交えた朝会通信の発行